

昭和村立南小学校

その名の通り、昭和三十三年、久呂保村と糸之瀬村の合併により、久呂保村立久呂保小学校は昭和村立南小学校となった。合併以前、子どもの教育はどうなっていたのだろうか。

明治五年、学校制発布以前の教育は寺子屋教育であった。明治六年、川額地区の雲昌寺に久呂保村で最初の小学校、川額小学校が開校する(生徒数五五人)。明治七年、森下地区の遍照寺に椽久保・森下を学区とした森下小学校が開校される(生徒数四五人)。翌八年、椽久保地区は分離し、椽久保小学校を現在の椽久保公会堂地に開校した。

明治十八年、川額・森下・椽久保の三校を統合し、北勢多第一小学校が開校した。翌十九年、小学校および設置区域の変更により森下に北勢多郡第一北尋常小学校が、川額に南尋常小学校が設置された。【明治二十九年の郡制施行まで、片品村より南側の村は勢多郡に属していた】

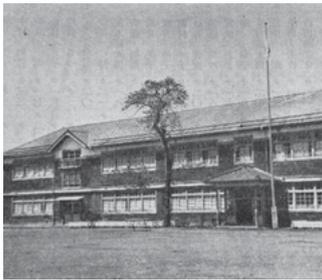
さらに明治二十六年には、高等小学校を併用した久呂保尋常高等小学校が開校された。

明治二十九年、永井分校が開校。永井分校は明治三十二年、

小学校数並学級数の変更の公認を経て森下を本校に永井を分校にして設けられた。【明治三十六年の児童数は尋常科一四一名、永井分校二〇名、高等科五三名で合計三五一一名】

太平洋戦争が始まった昭和十六年、勅令により国民学校となる。終戦後の昭和二十二年、新憲法の下、国民学校は廃止され小学校となる。久呂保村国民学校も久呂保村立久呂保小学校に改称。同時に新制中学として久呂保村立久呂保中学校も発足した。また、入植者の教育のため、赤城分校も発足された。

合併による昭和村の誕生とともに昭和村立南小学校となり、永井分校と赤城分校は本校に統合された。現在の南小学校は、平成六年に昭和南中学校の跡地に建てられた校舎である。



久呂保小学校校舎

参考 村誌久呂保

昭和村ボランティアガイドの会

事務局次長 倉澤 新平



地域の気付きで防ごう！高齢者虐待

高齢者虐待は、介護ストレスや経済的な問題、人間関係など、様々な要因が絡み合って発生します。決して特別なものではなく身近に起こりうる問題です。地域でも介護の大変さを理解し、高齢者や家族が出しているサインに気付くことが深刻な状況になることを防ぎ、高齢者と家族を守るきっかけになります。

主な要因

【介護者側の要因】

- ・介護疲れ
- ・疾病や障がい
- ・介護に関する知識不足
- ・生活苦

【高齢者側】

- ・認知症の進行
- ・多くの介護
- ・関わりが必要な状況
- ・人格や性格

【人間関係】

- ・折り合いの悪さ
- ・精神的依存
- ・経済的依存



虐待サインの例

- ◆自宅から高齢者や家族の悲鳴や怒鳴り声、物が投げられる音が聞こえる
- ◆庭や家屋の手入れがされていない、ゴミがあふれて異臭がする
- ◆郵便受けや玄関先が手紙や新聞で一杯になっている
- ◆近所づきあいがなく訪問しても高齢者に会えない
- ◆高齢者が道路に座り込んだり、徘徊している姿が見られる

気になること、心配なことがありましたら迷わずご相談ください！！

高齢者虐待は、高齢者と家族がともに追い詰められていることが少なくありません。地域の方々の日頃の見守りや声かけ、サインへの気付きが非常に重要です。



問合せ 地域包括支援センター ☎30-2121

